

今回のSの取材は

桜井由紀治(大阪エリア報道センター)

1990年入社。徳島、鳥取、神戸各支局員や松江支局長、編集局編集委員などを経て、今年4月から現職。長男(24)に知的障害があることから、障害者福祉の問題に关心を抱き、取材過程で竹中ナミさんとも知り合った。



取材する桜井記者

ナミねえの福祉改革

ストリー

障害者の「できる」に目を向け

1面からつづく

「ナミねえと呼んでね」。社会福祉法人「プロップ・ステーション」理事長、竹中ナミさん(50)は神戸市東灘区には誰にでも、そう自己紹介する。「ナミねえ」と呼ぶと、確かに距離がぐっと縮まり、旧知の間柄のように感じる。

今こそ政・官・財界でも定着しているが、実は「筋金入りのワルやった」という少女時代についた愛称だ。家出を繰り返し、神戸・三宮の盛り場をうろついた。アルバイト先で出会った恋人の家に転がり込んだのが15歳の時。高校は除籍となり、16歳で結婚した。「ワルやったから、平気で社会のルールを変えてやられた。アルバイト先で出会った恋人の家に守らなきゃいけないと考えるし、つぶされちゃう」。不良精神は今も健在だ。転機となつたのは、24歳で授かった第2子の長女麻紀さん(45)が心身両面で重い障害を持つことだったこと。自分の意思で体を動かせない。明暗が分かれただけの视力。だが「麻紀が私を更生させてくれた。この子を通して私のやるべきことが見つかった」。訓練施設に向かうバスを待つ朝、いつも緒になる母子の姿がない。我が子の将来を悲観し、心中していた。日本の福祉はどうなっているのか。専門書を読みあさった。当事者

から学ぼうと施設のボランティアもし起きた。この子を通して私のやるべきことが見つかった。訓練施設に向かうバスを待つ朝、いつも緒になる母子の姿がない。我が子の将来を悲観し、心中していた。日本の福祉はどうなっているのか。専門書を読みあさった。当事者

の根柢、「障害者の就労を支援する」ことに目を向けると、見えてきたのは、適切な支援さえあれば自立できる人

がたくさんいることだった。一方で、障

害者と認定された人は障害年金を支給さ

れる代わりに一般社会の外に置かれる。

「障害者」イコール「施しの対象」とい

う社会の意識を変えよう決意した。

1991年、障害者の就労を支援する

草の根団体「プロップ・ステーション」

を設立。「チャレンジドを納税者にでき

る日本」というスローガンを掲げた。知

的障害のある妹がいた第32代米大統領、

ジョン・F・ケネディの教書にヒントを

得た。納税者になるということは、社会

を構成する「員」になり、誇りを取り戻す

ことだ。一方、「チャレンジド」は米国

で使われる言葉で、心身が不自由な人を

障害者と呼ばれる。そこには鮮さを

感じ、スローガンに組み入れた。

活動開始あたり、4人の重度障害者

にアンケートした。8割が「パソコン

があれば仕事をできる」と答えた。翌

年、就労目的に絞ったパソコンセミナーを開いた。セミナーでプロの講師から技術を習った障害者らに、プロップが企業から発注を受けた仕事を得意分野に応じて割り振る。そんなビジネスモデルを描いた。

この年、『女に社会は変わらない』

と言い放った夫に恋して離婚した。

障害者と認定された人は障害年金を支給さ

れる代わりに一般社会の外に置かれる。

「障害者」イコール「施しの対象」とい

う社会の意識を変えよう決意した。

1991年、障害者の就労を支援する

草の根団体「プロップ・ステーション」

を設立。「チャレンジドを納税者にでき

る日本」というスローガンを掲げた。知

的障害のある妹がいた第32代米大統領、

ジョン・F・ケネディの教書にヒントを

得た。納税者になるということは、社会

を構成する「員」になり、誇りを取り戻す

ことだ。一方、「チャレンジド」は米国

で使われる言葉で、心身が不自由な人を

障害者と呼ばれる。そこには鮮さを

感じ、スローガンに組み入れた。

活動開始あたり、4人の重度障害者

にアンケートした。8割が「パソコン

があれば仕事をできる」と答えた。翌

年、就労目的に絞ったパソコンセミナーを開いた。セミナーでプロの講師から技術を習った障害者らに、プロップが企業から発注を受けた仕事を得意分野に応じて割り振る。そんなビジネスモデルを描いた。

この年、『女に社会は変わらない』

と言い放った夫に恋して離婚した。

障害者と認定された人は障害年金を支給さ

れる代わりに一般社会の外に置かれる。

「障害者」イコール「施しの対象」とい

う社会の意識を変えよう決意した。

1991年、障害者の就労を支援する

草の根団体「プロップ・ステーション」

を設立。「チャレンジドを納税者にでき

る日本」というスローガンを掲げた。知

的障害のある妹がいた第32代米大統領、

ジョン・F・ケネディの教書にヒントを

得た。納税者になるということは、社会

を構成する「員」になり、誇りを取り戻す

ことだ。一方、「チャレンジド」は米国

で使われる言葉で、心身が不自由な人を

障害者と呼ばれる。そこには鮮さを

感じ、スローガンに組み入れた。

活動開始あたり、4人の重度障害者

にアンケートした。8割が「パソコン

があれば仕事をできる」と答えた。翌

年、就労目的に絞ったパソコンセミナーを開いた。セミナーでプロの講師から技術を習った障害者らに、プロップが企業から発注を受けた仕事を得意分野に応じて割り振る。そんなビジネスモデルを描いた。

この年、『女に社会は変わらない』

と言い放った夫に恋して離婚した。

障害者と認定された人は障害年金を支給さ

れる代わりに一般社会の外に置かれる。

「障害者」イコール「施しの対象」とい

う社会の意識を変えよう決意した。

1991年、障害者の就労を支援する

草の根団体「プロップ・ステーション」

を設立。「チャレンジドを納税者にでき

る日本」というスローガンを掲げた。知

的障害のある妹がいた第32代米大統領、

ジョン・F・ケネディの教書にヒントを

得た。納税者になるということは、社会

を構成する「員」になり、誇りを取り戻す

ことだ。一方、「チャレンジド」は米国

で使われる言葉で、心身が不自由な人を

障害者と呼ばれる。そこには鮮さを

感じ、スローガンに組み入れた。

活動開始あたり、4人の重度障害者

にアンケートした。8割が「パソコン

があれば仕事をできる」と答えた。翌

年、就労目的に絞ったパソコンセミナーを開いた。セミナーでプロの講師から技術を習った障害者らに、プロップが企業から発注を受けた仕事を得意分野に応じて割り振る。そんなビジネスモデルを描いた。

この年、『女に社会は変わらない』

と言い放った夫に恋して離婚した。

障害者と認定された人は障害年金を支給さ

れる代わりに一般社会の外に置かれる。

「障害者」イコール「施しの対象」とい

う社会の意識を変えよう決意した。

1991年、障害者の就労を支援する

草の根団体「プロップ・ステーション」

を設立。「チャレンジドを納税者にでき

る日本」というスローガンを掲げた。知

的障害のある妹がいた第32代米大統領、

ジョン・F・ケネディの教書にヒントを

得た。納税者になるということは、社会

を構成する「員」になり、誇りを取り戻す

ことだ。一方、「チャレンジド」は米国

で使われる言葉で、心身が不自由な人を

障害者と呼ばれる。そこには鮮さを

感じ、スローガンに組み入れた。

活動開始あたり、4人の重度障害者

にアンケートした。8割が「パソコン

があれば仕事をできる」と答えた。翌

年、就労目的に絞ったパソコンセミナーを開いた。セミナーでプロの講師から技術を習った障害者らに、プロップが企業から発注を受けた仕事を得意分野に応じて割り振る。そんなビジネスモデルを描いた。

この年、『女に社会は変わらない』

と言い放った夫に恋して離婚した。

障害者と認定された人は障害年金を支給さ

れる代わりに一般社会の外に置かれる。

「障害者」イコール「施しの対象」とい

う社会の意識を変えよう決意した。

1991年、障害者の就労を支援する

草の根団体「プロップ・ステーション」

を設立。「チャレンジドを納税者にでき

る日本」というスローガンを掲げた。知

的障害のある妹がいた第32代米大統領、

ジョン・F・ケネディの教書にヒントを

得た。納税者になるということは、社会

を構成する「員」になり、誇りを取り戻す

ことだ。一方、「チャレンジド」は米国

で使われる言葉で、心身が不自由な人を

障害者と呼ばれる。そこには鮮さを

感じ、スローガンに組み入れた。

活動開始あたり、4人の重度障害者

にアンケートした。8割が「パソコン

があれば仕事をできる」と答えた。翌

年、就労目的に絞ったパソコンセミナーを開いた。セミナーでプロの講師から技術を習った障害者らに、プロップが企業から発注を受けた仕事を得意分野に応じて割り振る。そんなビジネスモデルを描いた。

この年、『女に社会は変わらない』

と言い放った夫に恋して離婚した。

障害者と認定された人は障害年金を支給さ

れる代わりに一般社会の外に置かれる。

「障害者」イコール「施しの対象」とい

う社会の意識を変えよう決意した。

1991年、障害者の就労を支援する

草の根団体「プロップ・ステーション」

を設立。「チャレンジドを納税者にでき

る日本」というスローガンを掲げた。知

的障害のある妹がいた第32代米大統領、

ジョン・F・ケネディの教書にヒントを

得た。納税者になるということは、社会

を構成する「員」になり、誇りを取り戻す

ことだ。一方、「チャレンジド」は米国

で使われる言葉で、心身が不自由な人を

障害者と呼ばれる。そこには鮮さを

感じ、スローガンに組み入れた。

活動開始あたり、4人の重度障害者

にアンケートした。8割が「パソコン

があれば仕事をできる」と答えた。翌

年、就労目的に絞ったパソコンセミナーを開いた。セミナーでプロの講師から技術を習った障害者らに、プロップが企業から発注を受けた仕事を得意分野に応じて割り振る。そんなビジネスモデルを描いた。

この年、『女に社会は変わらない』

と言い放った夫に恋して離婚した。

障害者と認定された人は障害年金を支給さ

れる代わりに一般社会の外に置かれる。

「障害者」イコール「施しの対象」とい

う社会の意識を変えよう決意した。

1991年、障害者の就労を支援する

草の根団